



# 東京YMCA

2009 12 月号

発行所 東京キリスト教青年会 発行人 廣田光司  
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

### 東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。



YMCA地球市民国際フォトコンテスト入賞作品  
「母の願い」 東京YMCA・田所悦子撮影

イエスは再び言われた。

「わたしは世の光である。

わたしに従う者は暗闇の中を

歩かず、命の光を持つ。」

(ヨハネによる福音書8章第12節)

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。



## 子どもとすぐそばで楽しいクリスマス

子育てひろば推進センター

「みずべの会」代表

新澤 誠 治



12月24日のクリスマス・イブの日は、キリスト教教会ではクリスマス礼拝が行われ、礼拝堂を暗くし、キヤンドルに点火して、その光りのもとでクリスマス賛美歌を歌い、聖書を読み、牧師の話を聞きます。

私たち家族(娘夫婦、次男夫婦と独身の長男、3人の孫)は、みんな揃って教会に行きます。日頃は教会に縁のない子どもたちですが、このキヤンドル礼拝に参加するのが慣習になっていて、数10年続いています。

教会から帰るとみんな居間に集まり、部屋を暗くして、ケーキに蝋燭をつけて「きよしこの夜」を歌い、「クリスマスおめでとう」を交わします。その後、孫たちが今練習しているピアノ曲を弾いたり、子どもの歌を作り歌っている長男も一緒にピアノを弾いたり歌います。その後のにぎやかなプレゼント交換では、子どもたちの喜びの声が響きます。親子で心を寄せ、愛情を交わし合う姿に、家の中がパッと明るくなった感じです。

キヤンドルの光りは、イエスの誕生の意味を伝え、「私は世の光りである」とのメッセージであり、一人ひとりに語りかけているのだと思います。私たちは日々の生活の中で、競争社会や物質文明に支配され、親は忙しく仕事や家事、育児に、子どもは学習へと追われた日々を送り、心までが現実の中に閉じ込められてしまいがちです。

クリスマスの夜、教会のキヤンドル礼拝に参加して、神秘的な体験の中で、目に見えない世界を知り、私たちが愛していただき、見守ってくださる存在を感じ、自分たちの生き方や価値観を問い直すことができました。らと思えます。家族が共に祝い、共に語り合い、愛情を交わし、家族団らんの時を大切にしたいと思います。一年に何回でもいい、クリスマスだけでなく、誕生日や新年など、家族で共に祝うことを大切に、それぞれの家庭の習慣にと考えます。クリスマスに私の好きな本を紹介いたします。

『サンタクロースって何ですか?』(借成社)

「サンタクロースはいるのですか」という、子どもの素朴な質問に、アメリカの「ニューヨーク・サン」という新聞が応えた社説です。「この世の中に、愛や、人への思いやりや、真心があるのと同じように、サンタクロースは確かにいるのです」「サンタクロースがいなければ、人生の苦しみをやらせてくれる、子どもらしい信頼や、詩も、ロマンもなくなってしまうでしょう」と物質文明に覆われている現実の社会において、サンタクロースが目に見えない世界に「信頼・愛・希望の世界へと幕を開いてくれる」というのです。

『クリスマスって なあに』(ディック・ブルーナ作、講談社)

「むかしむかしです。くらい夜です。ベツレヘムの人たちは、すべてねむってしまいました」と始まり、イエスの誕生と意味を簡潔でリズムのある言葉と共に、ブルーナ特有の絵で降誕を表現します。シンプルな絵本のように、詩的で深い味わいをもって、私たちにイエスの誕生のドラマを伝えてくれます。

### 赤三角

12月、日本赤十字社の近衛忠輝社長が第15代国際赤十字社・赤新月連盟の会長に選出された。国際赤十字の創始者アンリ・デュナンは、1855年第1回世界YMCA大会時のスイスの代表であった。名門カルヴァン学校を中退し実業の道を歩むも、国を超えての青年の交流をすでに図っていた27歳のアンリ・デュナンは、世界YMCA大会開催を協議し準備を主導したと言われる。

▼1859年に19世紀最大の白兵戦と言われるソルフェリーノでの仏軍とオーストリア軍の戦いに、彼は一民間人として立ち会う。一日で4万人の死傷者が出るという近代戦の悲惨さを目の当たりにし、村人と一緒に三日三晩分け隔てなく看護にあたった。1862年その体験を「ソルフェリーノの記念」として発刊し、戦時中の負傷者救護を敵味方区別なく行う団体と国際的な共同規約を求めて活動を起す。どんな場合でも人間らしく扱われることを求めて彼は各国を回った。この規約は後にジュネーブ条約へと繋がる。▼戦争の世紀、20世紀に赤十字とジュネーブ条約の果たした意義は計り知れない。彼を突き動かしたのは、主イエス・キリストの「あなたが隣人になりなさい」という福音を活きたものとするところであった。墓碑には「良きサマリヤ人」の彫刻が刻まれている。信仰に裏づけされた使命の尊さをクリスマスに覚えたい。

(副総主事 本田真也)